



# 学びを広げつなく 学校図書館と学校司書のこれから

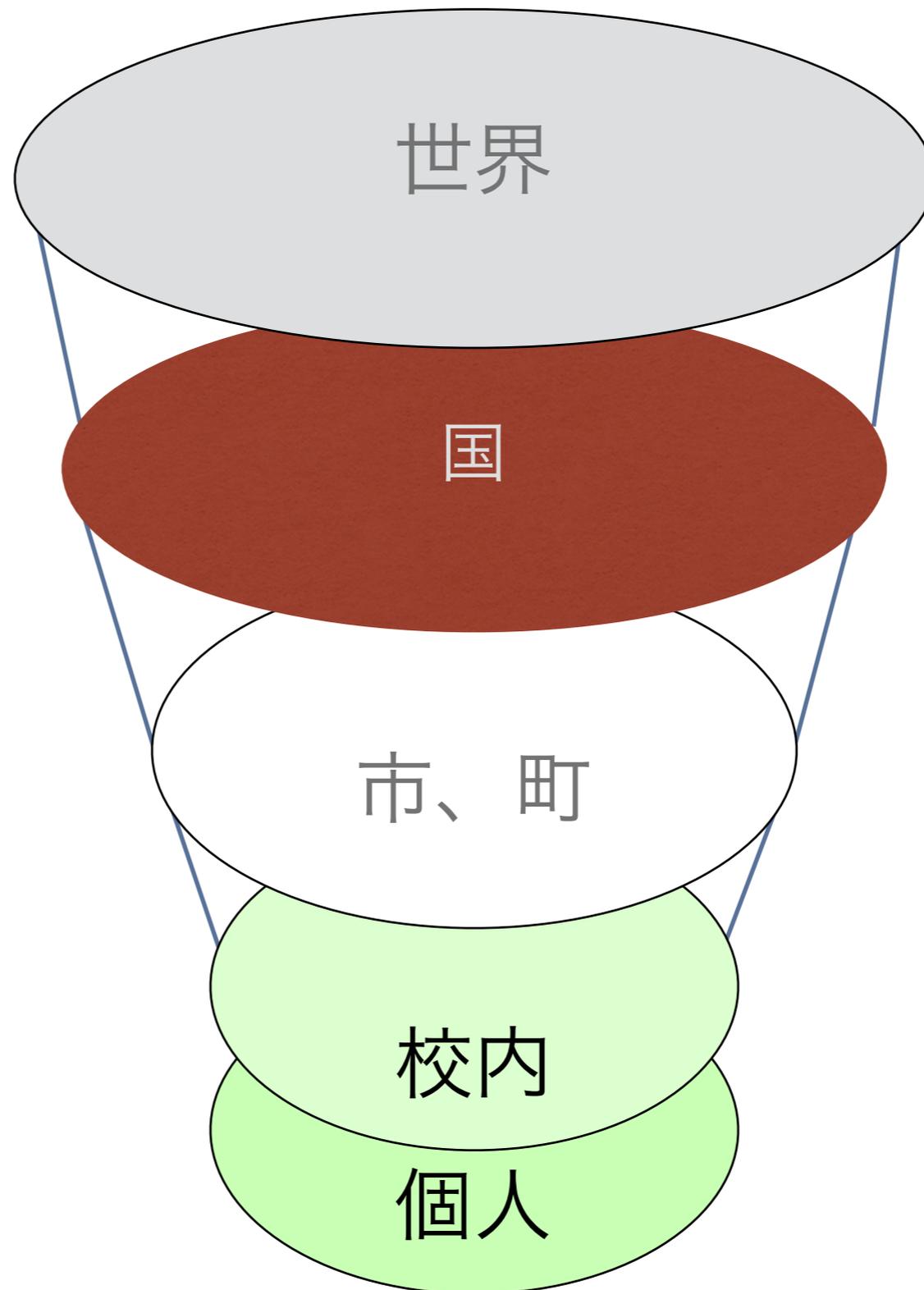
2017.7.24

長谷川優子 埼玉県立久喜図書館

## 市民からの期待

新井せい子さん（箕面市 学校図書館を考える会近畿）

- 市民として、子どもの読書環境を豊かに
  - 箕面市の行政と市民の協働 図書館づくり
  - 文庫から学校図書館へ
  - 学校司書配置へ
  - 学校教育の中に学校図書館の働きをどう創り出すか
  - 学び続ける
- 学び考え行動する市民  
学びのスパイラルと生涯学習の理想型



キーワードの視座  
どこから見るか

『問いをつくるスパイラル』より

# 学校図書館法

---

- 利用対象；児童又は生徒及び教員の利用に供する」

## 先生のサポート機能 授業づくりの支援

- 目的1 学校の教育課程に寄与する

## 授業で活用される図書館、「調べ学習」

- 目的2 児童又は生徒の健全な教養を育成すること

## 読書教育

# 新学習指導要領 2017年3月

- 小学校 2020年 中学校2021年全面实施（総則、総合的な学習の時間は2018年から移行）
- 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を

教科等横断的に育成することが一層重要となっている



1950年代

「学習指導要領」に学校図書館の扱いがない  
→法があっても、学校図書館は片隅へ追いやられた

# 「主体的・対話的で深い学び」いわゆる「アクティブ ラーニング」3つの視点

- 1 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- 2 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- 3 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

## 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

---

- 健康・安全・食に関する力
- 主権者として求められる力
- 新たな価値を生み出す豊かな創造性
- グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力

## 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

---

- 地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力
- 自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力
- 豊かなスポーツライフを実現する力

学習指導要領解説総則編 第3章2節

中央教育審議会答申より



選書の重要ヒント

# 中央教育審議会答申

背景にある考え方

- 子供たちが、学習内容を人生や社会のあり方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようにするため、子供たちが「どのように学ぶか」という学びの質を重視した改善を図っていくことである。
- 暗記中心から思考発信型へ
- 教師中心から学習者中心へ

# 社会に開かれた教育課程



学校司書にとっての  
キーワード

- よりよい学校教育を通じてよりよい社会をつくる
- 次世代の学校地域創生プラン
- チーム学校 – 様々な専門性を持った職員構成

# なぜ今アクティブラーニングなのか

---

## 溝上慎一氏

- 現代の学校から仕事・社会への移行課題
- これまで 近代の学校教育の成功
- 2045年 AIに置き換わるマニュアルワーク
- 児童生徒に迫る様々な社会の変化、その厳しさは個人が頭で、個人的経験で理解できるようなものではない。

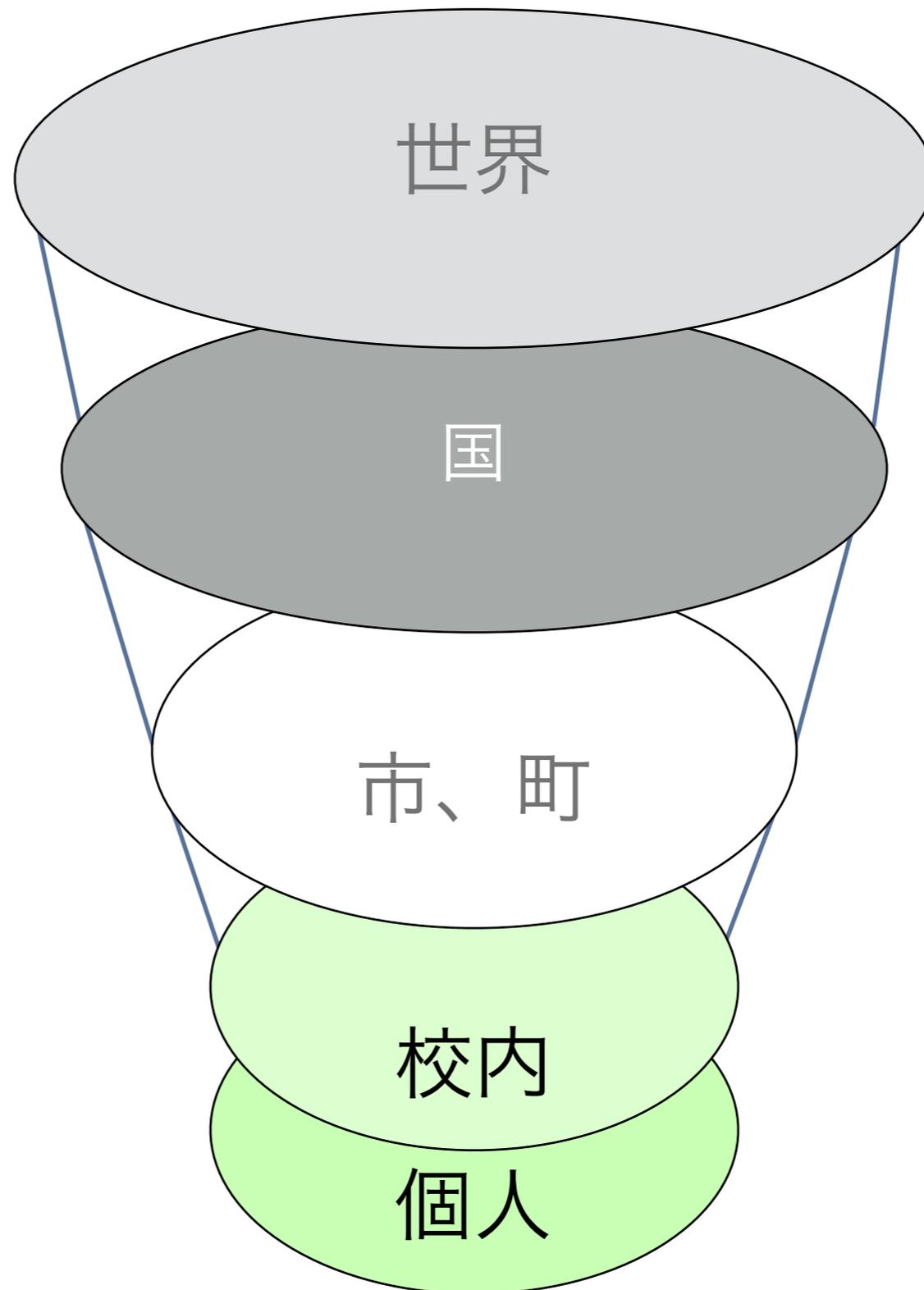
---

# 小林昭文氏

- キャリアデザインの変化
- 長期的展望→人生の分かれ道 卒業、就職、結婚、転職等に設計する
- 先生は先生以外の仕事がわからない

# 学校司書の役割とは

---



キーワードの視座  
どこから見るか

『問いをつくるスパイラル』より

## 学校図書館ガイドライン 2016年12月 学校司書の項

- 学校司書は、学校図書館を運営していくために必要な専門的・技術的職務に従事するとともに、学校図書館を活用した授業やその他の教育活動を司書教諭や教員とともに進めるよう努めることが望ましい。具体的には、1児童生徒や教員に対する「間接的支援」に関する職務、2児童生徒や教員に対する「直接的支援」に関する職務、3教育目標を達成するための「教育指導への支援」に関する職務という3つの観点に分けられる。
- また、学校司書がその役割を果たすとともに、学校図書館の活用が教育課程の展開に寄与するかたちで進むようにするためには、学校教職員の一員として、学校司書が職員会議や校内研修等に参加するなど、学校の教育活動全体の状況も把握した上で職務に当たることも有効である。



お気に入り場所 それぞれ  
生徒の気持ち

# 安心できる場

---

間接的支援

読書の基盤

- 安心、安全
- 自由に心をくつるがせる読書環境
- 心の居場所
- 時にスタイリッシュに読書を演出



# 学びを広げる

---

間接的支援

資料の力を見える化する

教育指導への支援

先生のために何ができるか

もう一つの出発点

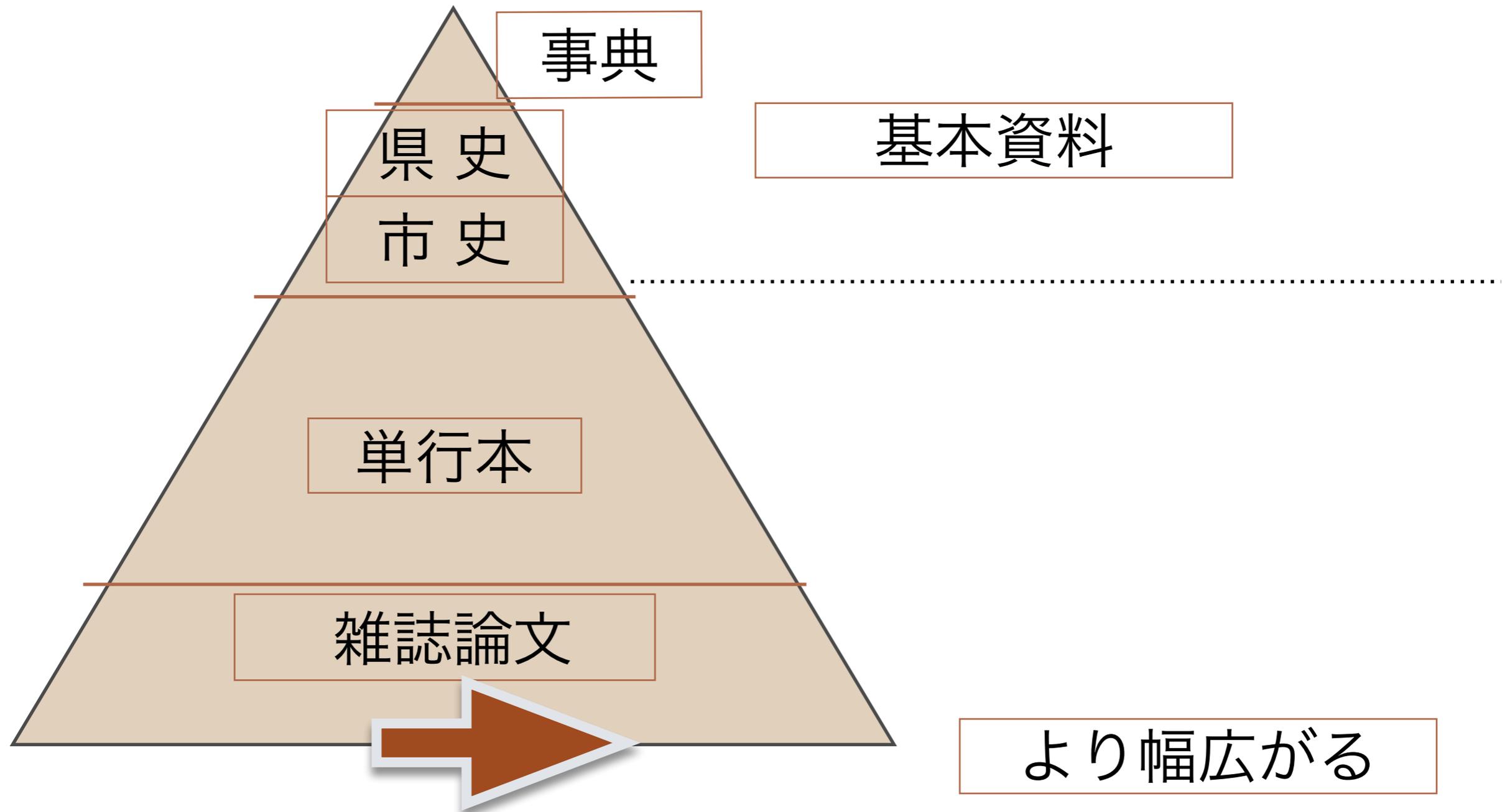


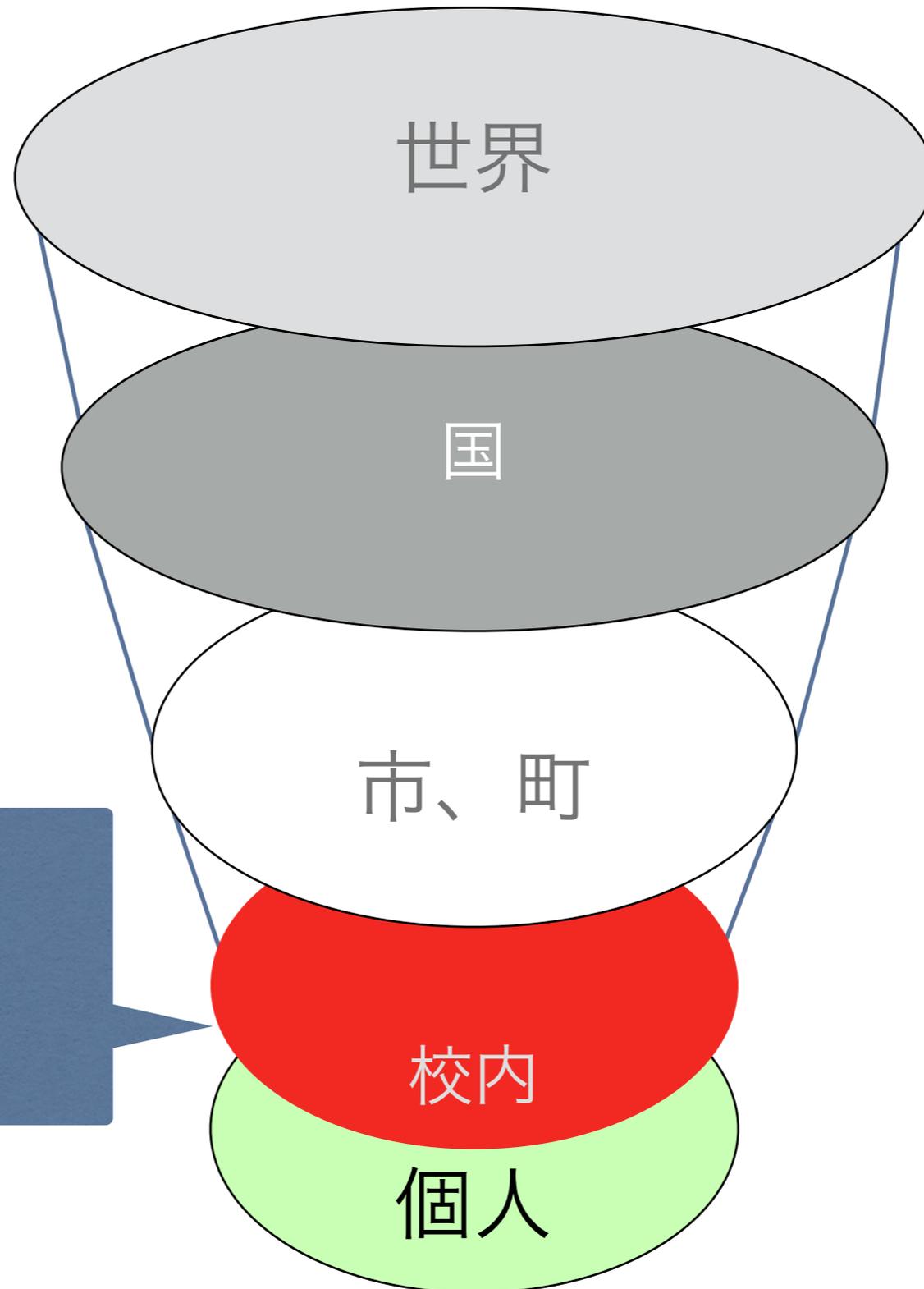
「知層」の見える化

参考図書から単行本、大系へ

# 知の地層 知層 — 埼玉県の歴史 —

---





学校教育目標  
年間指導計画

キーワードの視座  
どこから見るか

『問いをつくるスパイラル』より



# コアからポピュラー、教科、開架書庫

探索のスタートから周縁へ

## 探究的な学習の協働経験から（進学校の場合）

- 教師の求める「正解」を要領良くまとめるスキルに長ける
- 一定レベルの成果物
- 指導のための時間を特設する必要性はないように見える
- ワークシートは埋まっているが、生徒の本当の状況が見えない
- いつまでもステップ1のままとどまっている
- 図書館での調査は初期に鍵がある



エントランス 校内の辻



# 問いをつくる スパイラル

考えることから**探究学習**をはじめよう!



日本図書館協会 図書館利用研究委員会  
図書館利用教育ハンドブック学校図書館編(高等学校) 製作委員会



日本図書館協会



# 問いをつくるスパイラル によって図書館が提供できるもの

- 新たな授業モデル提案のツール
- 探究学習を支援する図書館・司書像の明示
- 「コピペ」から思考の軌跡へ
- 生徒が自分でプロセスをみとおし、現在がわかる

# 正解は ひとつではない

---

- 最善解
- 一人ひとりの到達点
- 探究を通じて
  - 「世界をほんの少しだけ変えた」 行動へ
- 学力差にかかわらず、自己への信頼へ。

# 医学図書館では がんセンター図書館

---

- 患者さんのための医療情報提供
- インフォームドコンセントの意味
  - 究極の「自己責任」 新自由主義
- 知識基盤社会での「生きる力」 自分だけの最善解

公共図書館で

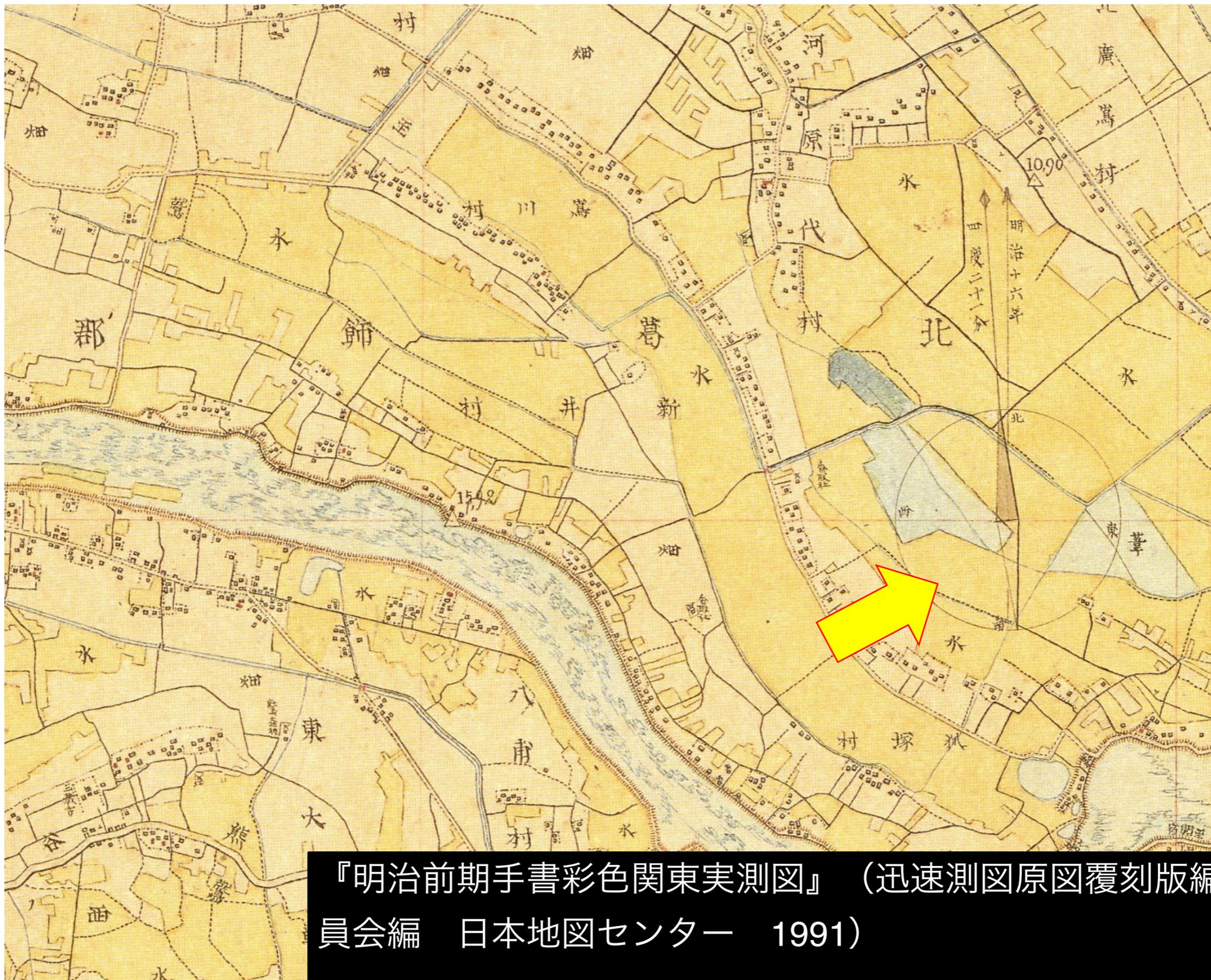
地域の課題解決

地域の課題解決につながるレファレンス

現在の南栗橋駅付近に、昔沼があったと聞いたが、  
それはどこにあったのか。

東日本大震災直後の質問

該当地域は液状化による被害が問題化



『明治前期手書彩色関東実測図』（迅速測図原図覆刻版編集委員会編 日本地図センター 1991）

（多色刷 第一軍管地方二万分一迅速測図原図覆刻版）

埼玉県武蔵国北葛飾郡河原代村外十六ヶ村

# 情報は

一部の専門家のものから、一人ひとりのものへ

- 迅速測図

明治初期軍事用→郷土史研究者には基礎資料

→江戸期の土地の姿を示す貴重な地図として多方面の利用

→WEBでの幅広い公開へ

- 治水地形分類図

河川管理者用→公開

自ら知り 自ら判断できる

秘匿されていた情報もオープンデータへ  
だからこそ人と必要な情報を的確に  
むすぶ  
情報のプロが重要に

# 主題知識

---

- 異なる館種の司書経験から
- 公共図書館では
- 医学図書館では
- そして学校図書館は
- 共通基盤は

# 学校で働く 異和感

---

- アイデンティティの危機!?
- 異なる視点を持っている→相対的に見る
- ヨソ者としての価値→弱点は強みに
- 開かれた社会への窓→学校から地域社会へ

# これから

---

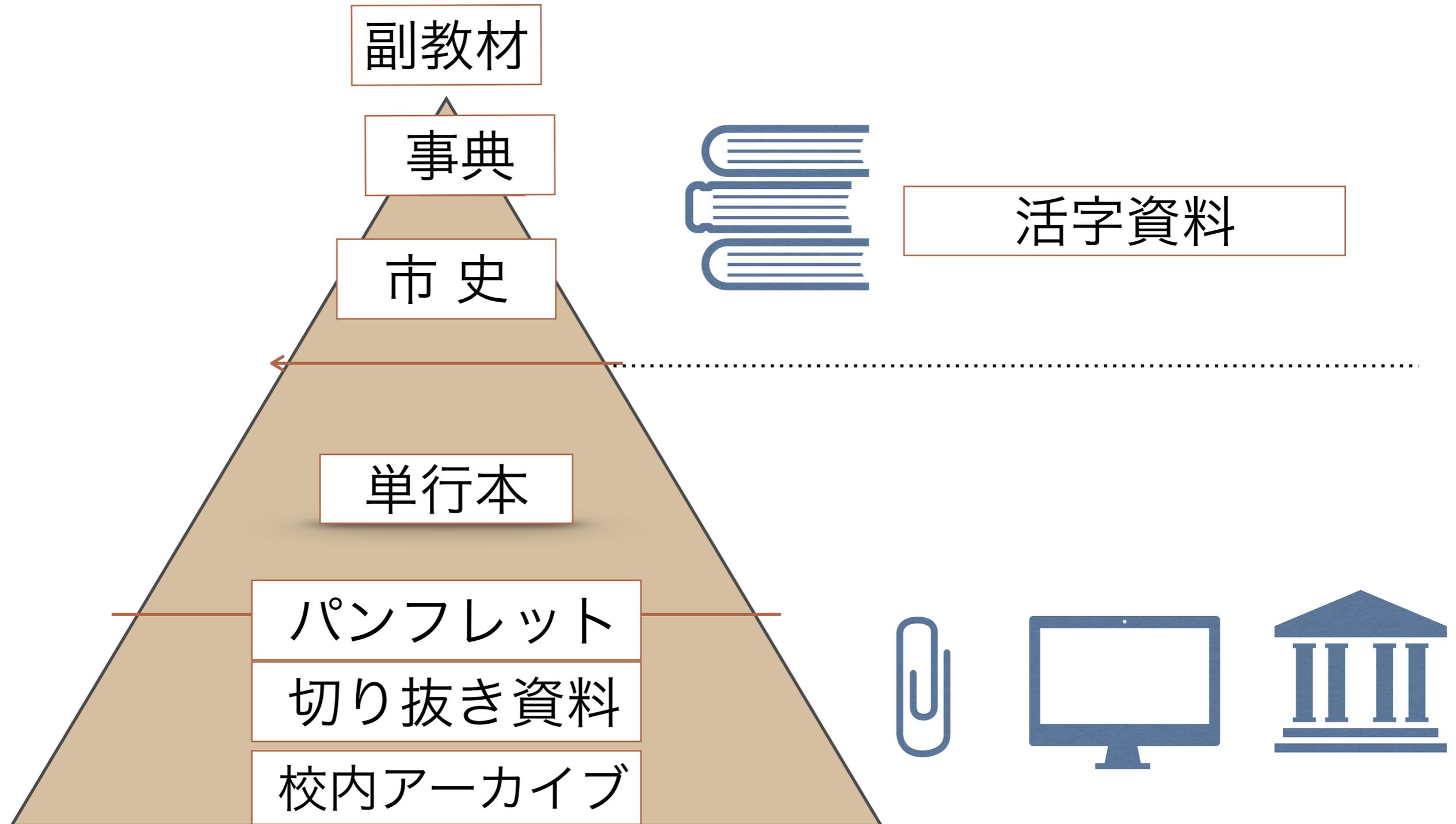
- 学校から社会へ ライフステージを支える図書館
- ビッグデータ（統計の新しい姿）
- 地域資料 自校資料（児童生徒作品）
- あらためて 生きる力

大切な収集資料

自らの問題意識に基づき、課題を設定し、他者に正解を求めず、主体的に解を見出す能力、自らの意見を論理的に発信する力

# 知の地層 知層 — 地域資料 —

---



# 注力するところはどこか 行動計画

---

ひとり（単館）で出来ること  
協働して出来ること  
外部資源を活用すること

# 学びを広げるために図書館（単館）で出来ること

---

1. 図書館資料利用予約シート作成（職員室）
2. 新任職員向けオリエンテーション実施
3. 授業利用申込受付シート（御用聞きカード）
4. 情報カードの常置
5. 前年度の成果物の収集展示

# 学びを広げるために 協働編（仲間と作る）

---

1. 資料支援ネットワーク整備
2. 公共図書館 図書館協力 との連携範囲の確認・年間計画（年間行事予定表）を届ける・利用可能性のある場合の連絡
3. パスファインダー、ブックリスト、導入のブックトークの共有化
4. 利用可能な類縁機関・情報源リスト
5. レファレンスの依頼先を知る

学びを広げるために

外部資源編（モノ金ヒト足りないからこそ）

---

1. 地域人財 協力者リスト

2. 全てのこどもたちに 障害に対応する資料

3. 有料データベース等 県立図書館 活用講座（出前講座）

4. 資料補修専門知識

5. 読書ボランティアの方のための研修

み かん ぞく しよ  
見て・聴いて・感じる読書

活字を読むのがむずかしい方のために



ご参加頂き、ありがとうございます。  
これを一つの素材として、学校図書館活動を深化  
頂ければ何よりです。

---

長谷川優子

[hasegawanora@gmail.com](mailto:hasegawanora@gmail.com)

埼玉県立久喜図書館

日本図書館協会図書館雑誌編集委員